

## 薬物動態談話会 9 月幹事会 庶務幹事資料

### 1. 2025 年 9 月例会 参加状況

9 月例会の参加申し込みは 44 名（9/24 現在）実数は当日報告します。

（内訳：一般会員 21 名、功労会員 1 名、幹事・演者 22 名）

2024 年度は 9 月例会の参加申し込みは 27 名（内訳：演者 3 名、一般会員 27 名、幹事会 21 名）でした。

### 2. 2025 年度 6 月演習セミナー アンケート報告並びに次年度予定

テーマ：DDI 予測のための拡張型クリアランス概念の理解と数理モデルの構築

日時：2025 年 6 月 27 日（金）10:00～17:40

会場：日本薬学会長井記念館 長井記念ホールA-B

アンケート方法：セミナー終了後に参加者に forms アンケートメールを送付して 34 人中 25 人から回答を得た（回答率：71%）

アンケート結果の共有と次年度計画のために、2025 年 8 月 20 日に、加藤先生と庶務常任・担当幹事にて振り返り会を実施した。グループごとの事前意見交換会は効果的であることが確認できたが、改善点も確認できた。次年度主任講師である前田先生にもこの内容を共有し、準備を進めていく予定。

＜結果の概略＞（アンケート詳細、議事録は別紙）

- ・ほぼ全ての参加者が開催内容に「満足」と回答
- ・全ての回答者が次回も参加したいと回答
- ・今年初めての取り組みである、グループごとの事前意見交換会もコミュニケーション円滑化／問題解決に効果的であった
- ・低分子以外のモダリティも実施して欲しいとの要望もあった
- ・意見交換会の主旨／実施方法について詳細な説明が欲しかったとの要望があった

（加藤先生のご意見）

- ・セミナーの継続性の観点から、担当講師・チューターの入れ替わりも考慮する必要あり
- ・全てを講師陣に任せるのではなく、不明瞭点は談話会側からもアクション起こしてすり合わせしてほしい
- ・当日のフロアセッションでの参加者からの質問は必須としたい。課題に関する質問が出た際には回答できる準備はしてある。もっと意見や質問が出るよう事前意見検討会で議論するのが良いのではないか。
- ・製薬企業以外のニーズが存在することは理解できる。現在の演習内容は企業研究者を想定しているが、部分的には薬剤師など企業研究者以外にも関連する内容はあるため、意欲のある参加者を受け入れることは可能かもしれない。本来はそのようなニーズは薬物動態学会が担う方が適切と思われるが、談話会の演習を部分的に公開して需要が多かったら動態学会での企画を考える等、連動させながら検討していくのがよいかもしれない。

(合意した改善点)

- ・事前演習範囲を明確にする
- ・不明瞭点は、担当幹事から主任講師に問い合わせする
- ・当日のフロアセッションでの参加者からの質問は必須としたい。その仕組みづくりが必要
- ・開会又は閉会時の挨拶として、演習会の主旨を参加者に説明する(モダリティに関わらず基本的な考え方は同じ、など)

<今後の予定>

- ・シリーズ2回目(前田先生)開催へ向けた準備
- テーマ:「体内動態の変動要因を考慮した薬物動態の実践的解析を目指して」(仮)

—10/9(木):庶務常任・担当幹事にて今後の打ち合わせ

—10/28(火):前田先生を交えた打ち合わせ

—12月中:2候補日のうち実施日確定(9/4に予定確認済み)

### 3. 入退会について(報告)

6月セミナー以降に退会届を1社より受領して、退会に関するメール審議が完了しております。

退会(1社):富士薬品株式会社

<会員数の推移> 2025年9月24日現在

| 年度        | 一般会員企業 | 特別会員 | 功労会員 |
|-----------|--------|------|------|
| 2025年(現在) | 70社    | 73名  | 17名  |
| 2024年     | 71社    | 73名  | 18名  |
| 2023年     | 72社    | 74名  | 17名  |
| 2022年     | 73社    | 75名  | 18名  |
| 2021年     | 73社    | 74名  | 16名  |
| 2020年     | 71社    | 74名  | 15名  |
| 2019年     | 70社    | 74名  | 13名  |
| 2018年     | 68社    | 73名  | 15名  |
| 2017年     | 72社    | 74名  | 18名  |
| 2016年     | 72社    | 75名  | 17名  |
| 2015年     | 70社    | 75名  | 15名  |
| 2014年     | 70社    | 74名  | 16名  |

### 4. ホームページ管理関係

進捗:全体としては当初予定に対して2-3週間遅延。

10月中に1次納品予定で対応中。

スケジュールは以下。

6月 詳細仕様の検討、技術面での試作・確認 完

7月 開発作業 完

8月 開発作業 完

9月 開発作業、確認作業 ⇒作業中:新HPに使用する各ソフト単体動作確認終了。それらを繋ぐテストサーバーの構築とシステム本体の開発作業中。

10月 リリース、フィードバック→随時修正

11 月 フィードバック→随時修正  
12 月 完了

## 5. 11 月年会準備状況及びゲスト参加希望について

本日の幹事会にて年会プログラム等の承認が得られたのち、すぐに参加募集開始します。同時に、企業展示ブースの募集も開始します（数社内諾済み）。

また、コニカミノルタ株式会社様（2024 年退会済み）より、再入会を希望する為、11 月年会の講演聴講・意見交換会のみに参加希望の連絡がありました。参加費は会員と同額で過去例に基づき案内予定です。

再入会希望の経緯：一度は事業の都合により退会したが、費用を含め今後の活動環境が整ったため、改めて談話会の活動に参加したいとのこと。

### <準備状況>

日程：2025 年 11 月 20 日（木）-21 日（金）@オークラアクトシティホテル浜松

- ・8 月中旬：仮見積もり入手
- ・8/26（火）：ホテルとの 1 回目打ち合わせ
- ・～9 月上旬：レイアウト案、見積もり修正案入手

### <今後の予定>

- ・～10/10 まで：募集案内開始、企業展示ブース募集
- ・10 月中旬：ホテルとの 2 回目打ち合わせ
- ・10/30：申し込み締め切り
- ・11/7：企業展示数のホテルへの連絡
- ・11 月中上旬：ホテルとの最終打ち合わせ
- ・11/14：宿泊名簿、人数連絡

※幹事企業の参加費は会計内規を参照してください

※談話会負担以外の幹事の参加は、通常参加者と同じく HP から参加登録してください

## 6. 今後の日本薬学会 長井記念館について

従来の長井記念館の運営管理会社が撤退し、今後は株式会社ティーケーピーが運営することになりました。現状は長井記念館の運営方法を検討中で、具体的な手順・ルール等は未定とのことです（HP も現在メンテナンス中）。

それに伴い、今後の予約方法やルール、設備利用金額が変更になる可能性がある為、来年度の庶務幹事は適切な時期に情報を入手して関係者に共有し、談話会の運営に支障が無いように管理するようお願いします。

## 7. 今後の例会日程

2025 年

|         |                       |                 |    |                  |
|---------|-----------------------|-----------------|----|------------------|
| 第 48 年会 | 11 月 20 日（木）- 21 日（金） | オークラアクトシティホテル浜松 | 浜松 | 予約済<br>（申込用紙未送付） |
|---------|-----------------------|-----------------|----|------------------|

14<sup>th</sup> International ISSX: September 21-24, 2025、40<sup>th</sup> JSSX : 2025 年 10 月 20-23 日

## 2026 年

6 月演習セミナー：候補日として、2026 年 6 月 19 日（金）又は 6 月 26 日（金）で仮予約中です。2026 年 1 月幹事会で日程を最終決定します（予告）。

9 月例会：候補日として、**2026 年 9 月 18 日（金）又は 9 月 25 日（金）**で仮予約を完了しました（報告）。

|           |                         |                |    |                 |
|-----------|-------------------------|----------------|----|-----------------|
| 1 月新年会    | 1 月 30 日（金）             | 東京ガーデンパレス      | 東京 | 予約済             |
| 4 月例会     | 4 月 17 日（金）             | 千里ライフサイエンスセンター | 大阪 | 予約済             |
| 6 月演習セミナー | 6 月 19 日 or 6 月 26 日（金） | 日本薬学会会長井記念ホール  | 東京 | 仮予約済            |
| 9 月例会     | 9 月 18 日 or 25 日（金）     | 日本薬学会会長井記念ホール  | 東京 | 仮予約済            |
| 第 49 年会   | 10 月 29 日（木）-30 日（金）    | ホテルクラウンパレス浜松*1 | 浜松 | 予約済<br>（申込書未送付） |

27<sup>th</sup> North American ISSX: October 11-14, 2026、41<sup>th</sup> JSSX : 2026 年 11/16（月）-19 日（木）

\*1 「ANA クラウンプラザ浜松」にリブランド予定とのこと（2026 年上半期中）。

## 2027 年

1 月例会：2027 年 1 月 22 日（金）又は 1 月 29 日（金）を候補としています。現時点でのご予定を再度ご確認お願いします。両日問題ないようであれば、ホテルでの日程調整結果に応じて、11 月幹事会終了後には本予約します（ホテルから 11 月中旬までには日程と会場の調整結果連絡受領予定）（予告）

4 月例会：2027 年 4 月 23 日（金）で決定し予約を完了しました（報告）

|         |  |                                       |    |      |
|---------|--|---------------------------------------|----|------|
| 1 月例会   | 1 月 22 日（金）<br>1 月 29 日（金）   | 東京ガーデンパレス*2                           | 東京 | 候補日  |
| 4 月例会   | 4 月 23 日（金）  | 千里ライフサイエンスセンター                        | 大阪 | 予約済  |
| 第 50 年会 | ①10 月 28 日（木）-29 日（金）<br>②11 月 11 日（木）-12 日（金）<br>③11 月 18 日（木）-19 日（金）<br>④11 月 25 日（木）-26 日（金） | ①ホテルクラウンパレス浜松*3<br>②③④オークラアクトシティホテル浜松 | 浜松 | 仮予約済 |

28<sup>th</sup> North American ISSX: TBD, 2027、42<sup>th</sup> JSSX : 2027 年 11/15（月）-18 日（木）で調整中とのこと

\*2:仮予約の受付は基本的に 1 日程のみにしてほしいとホテル側から打診あり。また予約も 1 年 1 か月前からの受付としているとのこと。先に本予約した団体を優先する。そのため、遅くとも 2025 年 9 月例会幹事会までには 2027 年 1 月例会日程を確定し、本予約できる状態にしておくことが望ましい。

\*3: : 2027 年 11/25-26@ホテルクラウンパレス浜松は、毎年恒例のお客様がいるとのこと。今後もこの日程の場合は当会場は今後も使用できない見込み。クラウンパレスは本来であれば 1 年以上先の仮予約は NG。他の引き合いがあればそちらを優先するとのこと、早めに日程確定する必要あり。

## 2028 年

|         |   |                    |    |    |
|---------|---|--------------------|----|----|
| 第 51 年会 | 11 月 9 日（木）-10 日（金）<br>11 月 16 日（木）-17 日（金） | オークラアクトシティホテル浜松（仮） | 浜松 | 候補 |
|---------|---|--------------------|----|----|

\*2028 年の年会会場仮予約は、2025 年度の見積価格および交渉の後実施します

\*10 月末開催になる場合に備え、時期が来たらホテルクラウンパレス浜松も仮予約予定。

## 2029 年

|         |  |                    |    |    |
|---------|--|--------------------|----|----|
| 第 52 年会 | 11 月 15 日（木）-16 日（金）<br>11 月 22 日（木）-23 日（金） | オークラアクトシティホテル浜松（仮） | 浜松 | 候補 |
|---------|--|--------------------|----|----|

\*2029 年の年会会場仮予約は、2025 年度の見積価格および交渉の後実施します

## 8. 次回幹事会の予定

11 月幹事会：2025 年 11 月 21 日（金）8:00～9:00（年会 2 日目朝）  
場所：オークラアクトシティホテル浜松 3 階 メイフェア

第467 回年会： 11 月20 日（木）－21 日（金）

# 薬物動態談話会 振り返り：2025年6月演習セミナー

25/8/20 薬物動態談話会

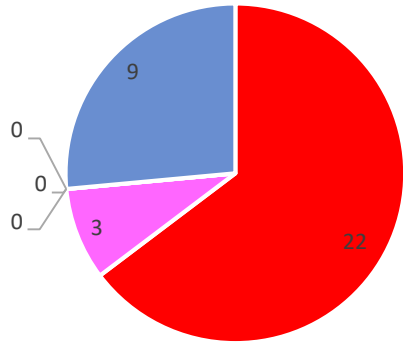
✓アンケート結果共有

✓今後の対応(当日メモ)

## アンケート結果共有: 回答数 25/34名: 全回答はエクセル参照

Q1:演習セミナー「テーマ:DDI予測のための拡張型クリアランス概念の理解と数理モデルの構築」を受講した印象についてお聞かせください(記述回答)

Q1



■ 大変満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ 少し不満 ■ 不満 ■ 未回答

### < 概要 >

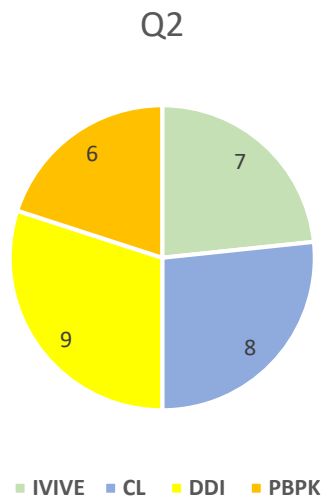
- 参加者の多くは基礎からしっかりと学びたいと考えていたと思われる。セミナーを受講して理解が深まり、実務にも活かせるようなポイントが得られたとの回答が多く、参加者の期待にはある程度応えられていたと思われる。
- 小数ではあるが少し難しかったとの意見もあったが、実務経験の有無に依るものと思われる。

### < 回答例 >

- 演習セミナーは初めての参加でしたが、基礎から解説があったため、最後まで内容についていくことができました。理論を勉強しつつ、演習を交えることで実践的なイメージも持つことができたと思います。
- 事前課題が非常に充実しており、特に拡張クリアランスコンセプトに関して理解が深まりました。また、質疑応答を通して業務上の課題に関しても生の声が聴けて勉強になりました。
- 膜透過を考慮したクリアランスの概念について、今まであやふやだった部分を基礎から正しく学習することができました。また、問題形式の演習であり自分で手を動かして考える時間が多かったため、理解度も深まったと同時に業務への活かし方もイメージできた。
- テーマがDDI予測のための数理モデル構築、だったので、難易度の高いセミナーだと身構えていたが、動態の基礎的なところから始まり、段階的に演習が組まれていたため、動態初心者にとっても理解しやすく有意義な時間になったと感じた。
- 事前にいただいた資料に関して、内容が詰まっており、理論的に理解することができた。
- 演習終了後の解説が手薄く感じたので、解説資料についてもいただけると嬉しい。

## Q2:今後の業務への活用を視野に入れた場合、今回の演習の中で印象に残ったこと、さらに深く知りたい事項があれば記載してください(記述回答)。

(延べ集計)



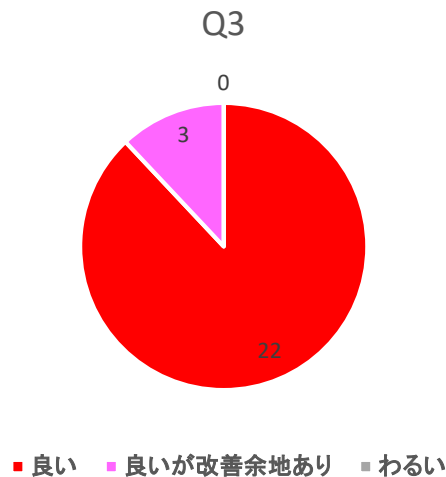
### <概括>

- 基礎理論については重複しているため、印象に残った内容としては満遍ない結果であった。
- 各自の業務で疑問に思っていた点、これから取り組みたい点を見つけているようだった。ケーススタディがあれば業務への活用についてよりイメージしやすいものと思われた。

### <回答例>

- IVIVEを用いてWell-Stirredモデルや拡張型クリアランスの概念を活用してAUCの推定し、さらにStatic modelによりDDIのリスクを判断する方法を学ぶことができ、業務へも活用していきたいと思います。一方で、濃度推移を推定することは難しい印象ですが、Kaを推定して濃度推移を予測するような方法について実務として活かせる方法などを知りたいです。
- 拡張型クリアランスモデルでのKppの使い方。肝臓中薬物濃度の変化に関する定性的議論を簡易に定量化を落とし込んでいて綺麗だと思いました。
- 膜透過も加味したクリアランスを考慮することで、より良い予測ができそうだと感じました。化合物のスクリーニングにどう取り入れていくか(セッション1のように)、今後考えていきたいと思いました。
- 酵素およびトランスポータ阻害の影響が被検薬の血中濃度に反映される程度は、代謝、膜透過過程における各要素の寄与率が重要であることが印象に残った。逆に被検薬が阻害作用を持つ場合、どの程度までの阻害であれば許容されるのか逆算をする方法についても考えてみたいと感じた。
- PBPKモデルについて、具体的な内容についてさらに深く知りたいと考えている。特に、核酸や抗体などの高分子のモデルについて深く知りたいと考える。

### Q3: 演習セミナーを3カ年計画で実施しますが、その印象についてお聞かせください(記述回答)。



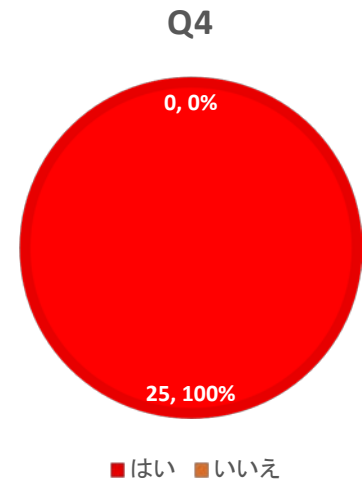
#### < 概 括 >

- ほとんどが賛同する回答であった。時間をかけて体系的に学ぶことは問題ないとする回答が多い一方、部署異動や参加を逃してしまった場合を考慮してもう少し短期での開催(半年ごと、2年で3回分)を提案する回答もあった。

#### < 改善余地ありの回答 >

- 時間をかけて体系的に学ぶことができるという点でよいと思う。一方でヒトにより受講したいタイミングとその年に実施される内容がずれると参加しづらい、異動等の懸念があるという点では2年サイクルでも良いのではないかと思った。
- 3年もと思ってましたが、このような機会を頂けることは大変貴重なので是非参加したと思っています。ただ部署移動なども会社員ですとあり得ますので、2年間で三回などのほうが有難い気もします。
- 3カ年計画で実施するが1つの演習を逃すと、3年後まで待たなくてはならない。1年目と3年目を同じ年に実施(半年毎)など、にするのはどうか。

Q4: 第2回「テーマ: 体内動態の変動要因を考慮した薬物動態の実践的解析を目指して」に参加したいと思いますか。



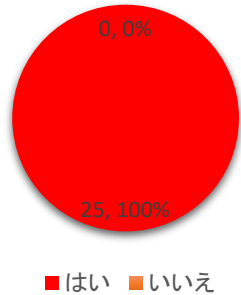
< 概括 >

- 全員が「はい」と回答。第1回の満足度、第2回の期待値ともに高いと考えられる。

Q5: 前期の振り返りを踏まえ、新たな取り組みとして事前意見交換会を設定しました。事前意見交換会は当日の演習を円滑に進めるために効果的だったでしょうか。

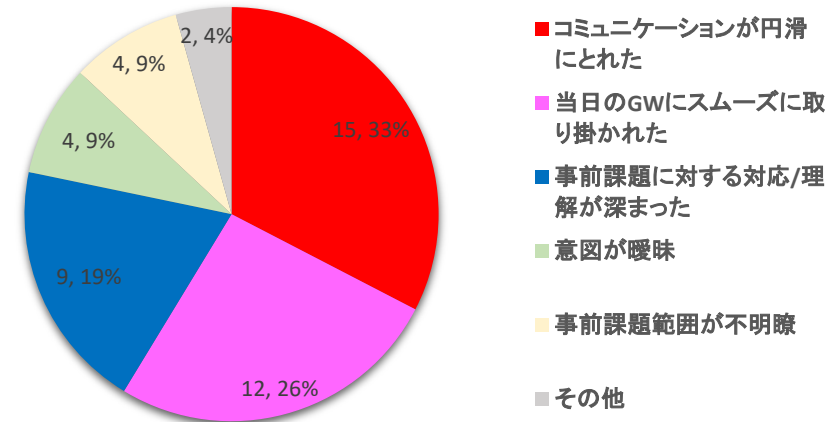
Q6: Q5にて選択いただいた回答の背景、事前意見交換会についてのご意見がありましたらお聞かせください(記述回答)。

Q5



Q6

(延べ集計)



#### < 概括 >

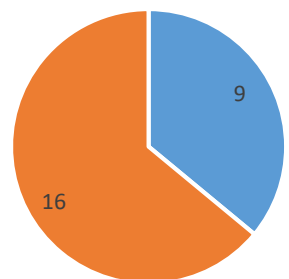
- 当日のコミュニケーションが取りやすかったとの回答が多数。また、事前意見交換会の趣旨が不明瞭だったとの回答も多く、進め方や事前課題の範囲など事務局からもう少し細かく連絡しておくべきだったと思われる。

#### < 回答例 >

- 事前に各メンバーのBKGや課題に関する意見を協議し、認識を揃わせることができた。
- また、各課題における回答について協議することができ、当日の議論を活発に進めることができた。
- 自己紹介等を事前に済ませておくことで、当日は円滑にディスカッションに入れたと思います。一方で、事前課題の範囲が分からずメンバーの大半が全ての問題に事前に取り組み、意見交換会で確認してしまっておりましたので、事前課題の範囲が分かりやすいと助かります。
- 当日のディスカッションにおいては、事前に面識があったことでスムーズであったと考えている。一方で、事前意見交換会における指定トピックがあいまいであった印象があるので、より詳細に内容を指定頂けるとより良いと思った。
- 事前課題をどこまで進めたら良いのか分かっておらず、全て終わらせてしまっていたため、当日の時間の使い方が難しかった。
- 意見交換会があったことで、自分の事前の理解が大幅に間違っていないことを確認することができ、当日余裕を持って演習に臨めたため。また、参加者の議論で自分のミスに気づけたり、異なる視点での考え方を知ることができ、当日は疑問の解消や意見が割れたポイントの議論に集中できたこともよかった。一方で「意見交換会」の捉え方がグループによって異なり、回答のすり合わせまできっちり実施したグループ、記述問題の回答だけを確認したグループとまちまちだった。主催者に指名された側もどこまでの意見交換求められているかがよくわからなかったため、事務局から必ず実施する事項、任意で実施する事項などを伝えていただけると進めやすかった。

## Q7: 演習セミナーの運営に関して、何か改善点・ご要望があれば記載してください(記述回答)

Q7



■ 改善希望あり ■ なし(満足)

### < 概括 >

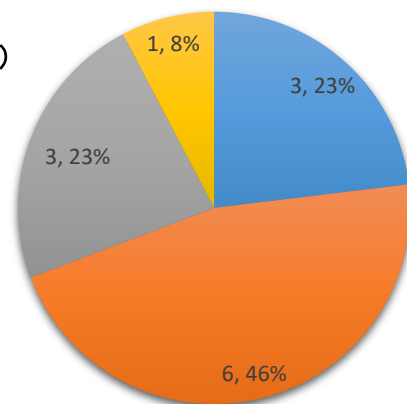
- 問6に関連して、事前意見交換会の進め方や事前課題範囲の連絡について改善を求める回答が多かった。演習当日の運営についての指摘はなかった(空調、昼食、スライド等)が、グループ内の席が離れている通しで少し声が届きにくいとの回答もあった。

### < 回答例 >

- 事前学習で実施する範囲は指定がなかったため、ほとんどの方が全て実施してきたと思う。一方で、その内容の演習時間が実際には設けられており、手持ち無沙汰になる時間があった。
- 事前意見交換会でファシリテーターは決められていたがどのような意見交換をするかについては周知されていなかったので改善いただきたいです。また、講師が想定されていた事前に取り組んでほしい課題の範囲について運営側とミスコミュニケーションがあったと思われ、演習時間がもたない場面がありました。
- 事前の意見交換会を実施するならば、当日の問題を解く時間はもう少し少なくてもよいように感じた。その時間を用いてより発展的な問題を解くか、ディスカッションの時間に充当出来ればより良い場になるように感じた。
- 課題についてもどこまで事前に回答しておくべきなのか、当日はどこから実際に演習時間を設けていただけるのかわからず、少し戸惑いました。
- 事前課題がどこまでを指すのかの言及が受講者側の資料等で恐らくなされていなかったため、過分な予習をしてしまい演習当日の時間を持て余してしまうことが多かった。
- 当日も新たな演習を加えても良いかもしれませんと思いました。事前にすべてわかっていた人は手持ち無沙汰だった可能性があります。あと本当はわかっていない人もいたかもしれません。
- 意見交換会の趣旨を明確にしてほしかった。また、特にどの演習問題の課題について議論を深めてほしかったのか、事務局の意見をいただきたいかった。事前課題については、皆さん取り組まれているはずなので、回答の時間よりも解説の時間に重きを置いてほしかった。

## Q7 改善希望内訳

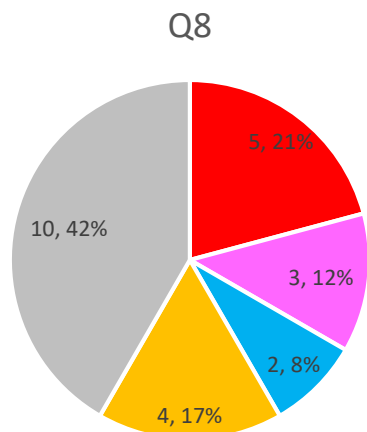
(延べ集計)



■ 意見交換会の意図が不明瞭 ■ 当日演習時間配分  
■ 事前課題範囲が不明瞭 ■ 環境

## Q8: 今後、取り上げて欲しいテーマなどあれば記載してください(記述回答)

(延べ集計)



■ 抗体・中分子・核酸医薬品など

■ PKPD 3

■ R, in silico

■ その他 (bottom-up実例、OJT、DX)

■ 特になし

### <回答例>

- 核酸医薬 (siRNA, ASO) における体内動態予測演習
- ボトムアップのヒト予測手法の実例について
- DDIのstatic model以外に、Time dependent inhibitionや酵素誘導に関する速度論をぜひお願いしたいです。
- また、低分子医薬品のみならず、抗体やペプチドなどの高分子医薬品についてもご教示いただきたいです。

薬物動態談話会 2025 年 6 月演習セミナー振り返り

日 時：2025 年 8 月 20 日（水）、16：00～17：00

場 所：Teams ミーティング

出席者：加藤将夫 先生、大石 常任幹事、渡邊貴 常任幹事

主席務：高橋・大橋 幹事、副庶務：大邑・岩井・高野・野本 幹事

## 1：アンケート結果の共有

・Q3 会社での部署移動や 1 つの演習を逃すと 3 年後まで待たなければならないことから、もう少し短期での演習セミナーの開催の要望が 3 件/25 件あった。

⇒講師の準備にかかる労力や講師の忙しさを考えると短期でのセミナーの開催は難しいと想定している。今後、担当幹事や講師の先生も変わるので、その時々でやり方を検討していくのが良い。

・Q6、Q7 事前意見交換会について、各メンバーとのコミュニケーションが円滑に取れた、課題に関する意見を協議し、認識を揃え合わせることが出来たなどの意見が大部分を占めた一方、趣旨が不明瞭であった、事前課題の範囲が曖昧との意見もあった。

⇒次回も（名称は別途検討するとして）事前意見交換会を行う方向で進める。その際、事務局側からその目的・意図を明確にし、きちんと参加者に説明する必要がある。また、事前課題についても、その実施範囲を明確にする。方法については、課題の文章中に事前課題と当日実施する課題がわかるように記載することや事務局から事前課題の範囲を明確に指示するというやり方がある。事前準備段階で先生と事務局で確認しながら進めていく。先生方に負担が増えないように事務局側での対応を考慮する。意見交換会という名称については、必ずしも最適な名称ではないかもしれないが（コミュニケーションと課題へのディスカッションの両方を意図した会である）、中身が重要であるため、そちらを先に検討する。

・Q8 今後取り上げて欲しいテーマとして、核酸医薬（siRNA, ASO）、抗体やペプチドなどモダリティーが異なる動態予測演習に関する要望があった。

⇒モダリティーが異なったとしても、今回実施した低分子での演習内容が薬物動態の基本である。事務局側でその様な趣旨を参加者に説明していく（例えば当日の開会 or 閉会時の常任幹事挨拶時など）。

## 2：演習時の課題

・演習時に会場を回った講師への質問や意見がほとんど出なかった（今回は参加者がしっかり事前学習を実施していたためという側面もあるかもしれない）。参加者からの質問は必須にしたい。演習に関連する質問には回答できる方を講師に指名していたので、もっと意見や質問が出るよう事前意見検討会で議論するのが良いのではないか。

⇒事前意見交換会の中で、コミュニケーションの円滑だけでなく、グループ内でどのような話や議論を行ったのか、またどのようなところが分からないかなど、より深い話が出来ると

うに会を導けると良い。それぞれの問題について1つくらい質問が上がるようにするのが良い。

意見交換会で質問を考え当日質問するというのが良いが、今後以下の点を詰める①質問を事前に吸い上げるか否か、②当日の質問は個人かグループか、③質問しにくい参加者の質問をどう吸い上げるか、など。現在は、参加申し込み時に質問を受け付けて吸い上げているが、課題とは直接関係のない質問であるため漠然とした質問が多く、回答しにくい(自分で調べべき様な内容の質問もある)。参加申し込み時の質問は参加者のレベル感を把握するために慣例的に実施しているのが実状なので、参加申し込み時に質問を募集するのは必須ではないと考える。グループ内での事前意見交換で出てきた質問に加えて、個々人が日頃の業務から講師に聞いてみたい質問も吸い上げられるとよい。今後は事前課題を実施→意見交換会で質問を準備→講義→質問という形がよいと思われるが具体的にどのように進めるかは今回の振り返り内容を踏まえて検討していく。

・講師が急に体調不良になる可能性があるので、その時の対応策を考えておく必要がある。  
⇒Zoomの設定は緊急時に役立ったが、音声の不備もあった。大きめのマイクで音を拾うことや会場の講師が代わりに伝えるなどの対応で充分か、他の方策も考えておく必要あり。

### 3:その他

・継続的にこの演習セミナーを続けていくためには担当の入れ替わりも考慮しながら考えていく必要があると感じる(加藤先生)。

・今回、病院薬剤部からの参加希望があったが、動態談話会会員ではないため、お断りした。PBPKモデルやPPKなどは昨今の添付文書やインタビューフォームに記載されているため、薬剤師からのそれら演習のニーズは高いことが推察される。  
⇒製薬企業と薬剤師では学びたい演習の内容が必ずしもマッチしない。動態談話会での演習は会員の企業向けなので、企業向けの内容となっている。IVIVEは薬剤師の先生方には関連が薄い一方、臨床寄りになると企業研究者の関心から離れてしまう。ただ、演習の3番4番あたりは薬剤師にも関係する演習であるので、意欲のある参加者を受け入れるのは良いのではないか。キャパシティに限りがあるので、どの様に受け入れるかは課題(談話会としては一案として、参加企業の申し込み後、余った枠を利用するという事を考えている)。そういったニーズ(薬剤師のPBPKの理解)については、動態学会で担う方が適切であると感じる一方、カリキュラムや講師をどうするかという現実的な問題もある。談話会の演習を部分的に公開して需要が多かったら動態学会での企画を考える等、連動させながら検討していくのがよいかもしれない。薬剤師に広く案内するチャンネルとしては医療薬学会が考えられる。

以上